

お座

市任喜し越ハ着後早し樺山將軍等へ通いり衆  
威海軍の後の折方面とは違ひる南方台湾が大隈  
伯の台北湾端先方来し為氏折中を讀みたり其方より  
此回端あり折南書置り中ありと答へらる

購和使の事上件在京諸先輩の意見を譲りつれども  
つまり福判不調とは毎々し兵りしと獨り大隈伯は或は  
我が當局者の押ル術中を隔あり最後の條件を白状  
せしめりしとはなき也と氣未慮ハ此なりと譲りたりし  
樺山將軍も只此一點を心配し長とすし樺山子見交  
けらる

園田安賢上命其意見を叩きり来至端我れの條件  
を先げ承り答ありと公亮するより御心故更上斯る  
歳を云ふかと思ふ流し長なるは歳をいふはありし  
實際伊左衛門陸奥子の意見も甚しあり御心の至  
權次府より台北湾要求位は持出す覺悟ありし  
が如く松方伯来りて通し購和使の事力する前々  
夜ありし之を端破し何と云ハおは収付けた事  
一決せし樺山子見交

樺山將軍の参考謀海軍大佐伊集院忠昂が佐世保に  
出張し長なる事情ハ真浦又ハ石原より既し  
上げたり未だ申上げずハ石原より中取りに  
右伊集院が歸着の前一日は余も台北湾此點の  
方針一在したりと傳へたりしも昨今の噂を以て  
余等陸軍は戦闘力を分つを歎せざるが如く  
係し台北湾取らざるとの疑は一也ありおん

余等伊集院忠昂が計畫せられたる海軍を  
先づおん工術を巨額するの方針ありし  
客中此の事も多々陸兵も向ける事は向  
けたるも高島將軍を軍司令官を  
一師團以上の兵を出すと云ふ樺の事は  
未定ありの計案ありしかしき方か素  
せりし申す

松方伯は今朝十時四十五分衆の集まりて  
神戶に向ハ此の昨夜深更二時頃まで川  
上將軍と密談し長なるが何を述べしや  
今朝ハ忙かしくしを御承りしや  
定めて今後の軍略方針を論じたりし  
りしありし高島將軍既し神戶に  
居るは松方伯は將軍をセキ立てり

松方伯は將軍をセキ立てり



定めて了後の軍略方針を固めたことありし如く高島將軍既にして戸子事ありしに於て松方伯は將軍をセキ立てて各地に事なしとす其に於て此の如くは猶も少しは望みありしにありしに高島將軍を待つ居る事とす

長谷傷に於て午の儀事をして立てては月二三日と相承るべく旭山より一行も明らけり後日おかけて出立するべく四日の中より皆お着る事とす其の詳細は中取所より後日あり

西邸將軍を陸軍大臣に任じし榊山將軍を海軍大臣に任じし榊山將軍の海軍に人ありしを呼ぶ者しと將軍呼ぶ者ありしを呼ぶ者を得る事とす

大寺安純百尺崖所を敵艦の巨砲に觸れ戦死したるに確かに此處に所刻権兵衛を語り確めたるに大寺を

傷位に追進ぬの事上申せよとの電報を此は後報ありと死せよと書りてしと申しし

右の事と事りしに不致しと台湾方針に確定次第ありしに報可化

四日

近て略討は免れりる事とす

オニニ

大隈伯閣下  
物折